

【事業概要】

水産資源調査・評価推進委託事業（国際水産資源） （試験研究費（受託事業））

南 洋一*, 中田祐二

マグロ・カジキ類は、沖縄県の漁船漁業において水揚げ量・額とともに最も多く、本県の水産業における重要魚種となっている。一方で、高度回遊性魚類であるマグロ類・カジキ類の資源管理は県単独では対応が不可能で、国際的な取り組みが必要である。これを進めるために、わが国では国立研究開発法人水産研究・教育機構がその取り組みの中核となり、関係する道府県の水産研究機関や大学等と共同事業体（JV）を組み、水産庁から事業委託を受けている。

本事業では、広域回遊性を示すマグロ・カジキ類の国際的な資源管理に対応するため、JVに参画している各機関が、役割分担をして調査・研究を行っている。特に資源管理の必要性が高いとされている太平洋クロマグロ（以下、クロマグロ）については、本県の周辺海域が主要な産卵海域とされており、ここから得られる各種の情報は本種の資源管理上、極めて重要といえる。

そこで本県では、クロマグロ産卵時期に相当する4～7月に沖縄県水産公社で水揚げされる同種の漁獲情

報調査（漁場位置、漁法、水温、漁船名等）および生物学的調査（尾叉長、体重、性別）を行った（図1, 2）。同時に遺伝子解析に用いられる筋肉サンプルの採取もを行い、国際水産資源研究所に送付した。

また、本県の漁獲統計システムをもとに集計した漁獲情報（漁船名、漁法、漁獲量等）を取りまとめ、国際水産資源研究所に送付した。

さらに、調査船調査を行い、クロマグロの産卵時期にあわせて、2mリングプランクトンネットを用いた卵稚仔サンプリングを実施した（図3, 表1）。採取したサンプルはエタノールで固定し、西海区水産研究所亜熱帯研究センターに送付した。

本調査結果の詳細については、「平成31年度日本周辺高度回遊性国際魚類資源調査委託事業報告会」において報告を行った。またその内容については、「平成31年度水揚げでのまぐろ・かじき調査結果」（国立研究開発法人水産研究・教育機構刊）に掲載されているので、詳細についてはこれを参照されたい。

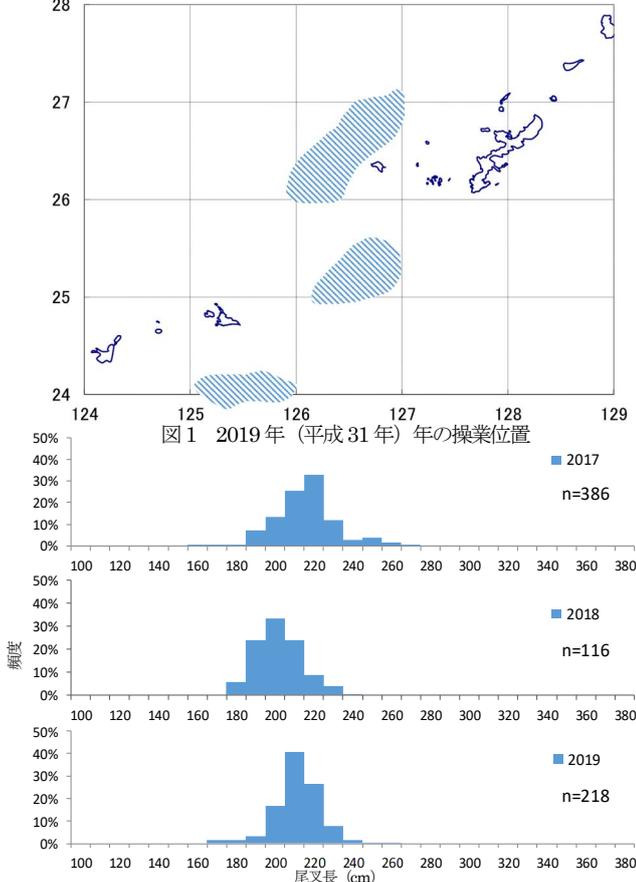


図2 過去3年間の体重組成図

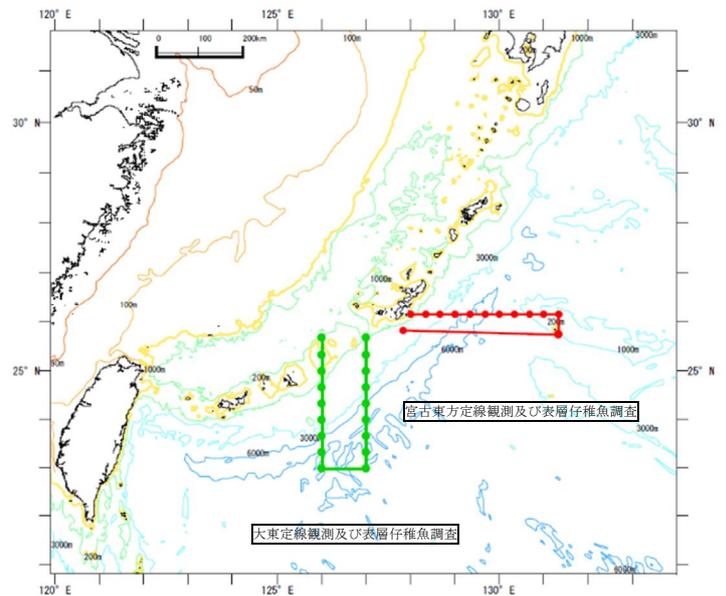


図3 2019年（平成31年）年の操業位置

表1 2019年度に実施した卵稚仔調査一覧

調査海域(定線)	調査期間	月齢	調査内容	備考
1 宮古東定線	4/23-4/26	17.8~20.8	CTD, ADCP, 2mリングネット曳き	18定点
2 大東定線	5/13-5/15	8.2~10.2	CTD, ADCP, 2mリングネット曳き	14定点
3 宮古東定線	6/3-6/6	29.2~ 2.7	CTD, ADCP, 2mリングネット曳き	18定点
4 大東定線	7/3-7/5	0.3~ 2.3	CTD, ADCP, 2mリングネット曳き	14定点

*E-mail : minamiyc@pref.okinawa.lg.jp 本所（現所属：沖縄県北部農林水産振興センター農業水産整備課）